



浜家連ニュース

第148号

平成24年(2012)年12月1日発行

○発行 特定非営利活動法人 横浜市精神障害者家族連合会
〒222-0035 横浜市港北区鳥山町1752番地
障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール3F
電話 045(548)4816 FAX045(548)4836

《巻頭言》 平成24年(2012年)を振り返って 理事長 米倉 令二 よしつぐ

皆様今年はいかがな年でしたでしょうか。私事になりますが、5月の通常総会で推薦されて理事長に就任しました。石井(現顧問)さんの後を引き継ぎNPO法人浜家連の理事長として2代目になり、その後極めて多忙に様々な方面の役をこなしてきました。ご協力ありがとうございました。

2月には浜家連として初めての試みのチャリティーコンサートを大成功させることができました。(復興支援の名目での開催となり、義援金として60万円を被災地に届けました。浜家連ニュース4月号をご覧ください)

家族会の会員さんが結集して実行した活力には敬意を表したいと思います。4ブロックのフォーラムにおいても、会場を満員にするほどの力があることが実証されて、理事長としてはこんなに嬉しいことはありません。立ち上がったHPもタイムリーな記事を載せて更新され、浜家連が各方面で注目されています。このことも嬉しいことです。

健康福祉局、市会等への提言は障神奈連とも連携して特に「福祉パス」有料化については一貫して反対を唱えて活動しました。今年度ほど提言したという実感が持てた年はないように思います。

12月16日には総選挙が行なわれます。どのような政治体制になっても、私たちは声をあげ続けたいと思っています。家族会皆様にとって来年は良い年であることを願います。



◎◎Dブロックフォーラム「うつと統合失調症」報告 さかえ会々長・副理事長 宮川玲子

11月7日(水)栄区の栄公会堂でDブロックフォーラムを開催しました。今回のフォーラムは会場が600名という定員なので宣伝に力を入れました。チラシは公共機関はもちろんのこと学校や周辺のクリニックや病院、民生委員にも配りました。その甲斐あって、今回は家族会以外の方が多数参加されたので市民の啓発活動の一助にはなったと思います。好天にも恵まれて入場者は334名でした。

1部は、当事者の演奏と体験談。演奏は紀野はりおと仲間の皆さんが3曲披露、朝からリハーサルを重ねた成果があり、堂々と落ち着いて演奏していました。特に最後の当事者の心境を歌ったはりおさん作詞・作曲の歌は少し長いにもかかわらず感動させました。

体験談は生活支援センターの秋本さんの司会で高木さんと浮田さんが語って下さいました。高木さんが「かつら工房に骨をうずめる」と力強く語ったのはパンを作る作業所やお店に生きがいを持っている様子うかがえました。また、浮田さんの「統合失調症になって良かった」という一言は一昔前までは考えられなかった言葉で、統合失調症の人も少しは生きやすい世の中になってきたのかなと思いました。

2部の横須賀汐入メンタルクリニックの阿瀬川孝治先生の「うつと統合失調症」の講演はスクリーンがカラーで見やすく、出演者が外国人なのも良かったようです。一般市民向けにとっても解りやすく話して下さいました。何度も病気の話を聞いている家族にも基本的な事を整理するうえで勉強になったと思います。このような話をだれでも1度は聞いていたなら偏見のない世の中になるだろうと思います。せつかくの機会なので是非もっと沢山の人の人に聞いてもらいたいと思いました。後半の質問にも一人一人丁寧に答えていただき、先生の人柄を感じられました。先生のクリニックではデイケア・カウンセリング・SST・認知行動療法・家族教室・アウトリーチなど当事者や家族のニーズに合わせ、沢山のリハビリのメニューを用意してくださっているので、横浜にもこのようなクリニックが増えたら良いなと思いました。

公会堂はロビーが広く、出店した6つの作業所と浜家連の書籍コーナーには開始前や休憩時間に大勢の人が集まり、お祭りのように賑やかで、久しぶりの交流の場にもなり良い雰囲気でした。作業所も売り上げが多かったと喜んでおりました。

最後にDブロック4区の役員の皆様は分担の役割をとめてきばき処理していただき後片付けまでとてもスムーズに進行できました。ご協力ありがとうございました。感謝申し上げます。

☆☆☆ 第5回「みんなねっと茨城大会」が開催されました。（事務局 斉藤）

～私たちで拓く扉！障害者元年～の副題の元で平成24年11月21日(水)22日(木)の2日間にわたって、茨城県つくば市で「第5回みんなねっと茨城大会」が開催されました。浜家連からは、2日間で16名の方が参加されて、1日目の基調講演、2日目の5つの分科会に分かれて参加しました。主催者側の発表で延べ参加人員は1500名の多く方が集まりました。基調講演の中で、厚生労働省からの発表で、12月16日に総選挙が行なわれますが、何と言っても「福祉に力を入れる代議士を選んでください。」ということを力説されました。担当者としても全国の人たちの熱い気持ちを受け止めて官庁の立場で頑張りますが皆様も一つになって国会に届くようにしてくださいとのことでした。ご承知のように精神障害者に関することは、どうしてもおろそかになっている気配があります。機会を捉えて発言していくことが重要だと感じた2日間でした。

1日目の夜の懇親会では、浜家連の参加者が壇上で横浜の結束力を大いにアピールしました。

以下参加者からの報告です。

◇ ◇ ◇ 開会式について

すずらん会 鈴木 本陀理

茨城県精神保健福祉会連合会古池源造会長の開催挨拶に続いて、橋本昌茨城県知事、そして市原健一つくば市長の祝辞に正直心の温かみを強く感じホッと勇気をもらいました。

祝辞の中で両者共に、声を大にして「精神保健福祉の向上と増進に日々尽力している、ご参集の皆様へ深く敬意と感謝の意を表します」と心から述べて下さいました。果たして黒岩神奈川県知事がここまで言い切ってくくださるかどうかと心配になりました。又、来年度開催予定地の松井大阪府知事そして橋下大阪市長がどれだけ精神保健に理解をお持ちで、どれだけ協力してくれるだろうか？と選挙を控え心揺れるこの頃です。

どんな政治家が出てこようが諦めることなくこの全国大会を機に障害者元年として重い扉を拓いて参りましょう。

△ △ △ 開会式セレモニーについて

常任理事 松本やす子

研究学園都市つくばで行われたことに興味が持てました。茨城生まれの私ですが北と南（私は南部）で昔の筑波山麓のイメージとかけ離れ、300もの研究機関がある研究学園都市となり素晴らしい環境の街が存在していました。大会が行われた「つくば国際会議場」も広く素晴らしい会場でした。オープニングで水戸高等学校ジャズクラブ演奏に合わせ、鉾田市社会福祉協議会地域活動支援センター「スマイル」（茨城県中央看護学校卒業生ボランティアが入った）を中心に5団体のメンバーがそれぞれに自分達の活動内容の発表・合唱してアピールして、最後に皆で「あきらめないで」の県の歌を合唱された。別々の地域でそれぞれの活動をなされているのに本番前1回だけの練習で（各センター内では早くから練習されていたと思いますが）素晴らしいまとまりで感動しました。高校の顧問の先生の総指揮も良かったです。一日目のみ参加しました。

〇〇〇 「私たちの求める家族支援」について

講師 佐藤 純先生(京都ノートルダム女子大学)

あけぼの会 岡林 郁子

佐藤先生は数少ない家族支援の専門家として1日1人1時間半、3人の家族の相談を受けています。本人と家族は、病気そのものの苦しみ、支援がないことの苦しみ、社会に理解がないことの苦しみ、に直面しています。十分な支援が届けられ、社会の理解が進めば、すこしニコニコと暮らすことができるかもしれません。家族への提案として、親無き後ではなく親が生きている間に、本人のケアは全て家族が担っている現状を変え、ケアマネジメントの役割を専門家に任せる。入院しても、通院になっても、本人がサービスを利用しなくなっても、ケアが必要な間は一貫して責任を持って相談に乗ってもらう。家族会が専門職向けに家族支援の研修会を開く。行政だけではなく、医師、看護師、精神保健福祉士等にも要望をする。私は家族の苦しみ、しんどさは専門職の方には理解されていると思っていましたが、あまり伝わっていない事が分かりました。これからの家族会は家族の思いをどんどん公表して、家族支援の大切さを、訴えていかなければと思いました。

精神疾患の治療が進み完治することがほとんどの人の願いですが、障害が軽くならなくても、本人も家族(親、兄弟、子供、配偶者)が少しでもニコニコ暮らしていけることを当面の目標として、より身近に感じる精神保健福祉システムに進んでいってくれば幸せが近づいてくるということでした。

佐藤先生の講演は、先生が家族のように思わせる視点がこちらに伝わってきました。ACT-K と活動を共にしているとの事に納得しました。

□□□ 1日目3 題目 西田淳志先生の講演について すずらん会 稲葉定男

「こころの健康基本法(仮称)の法制化に向けた国民的取り組みについて」「こころの健康基本法」の法制化を国会に求める活動を事務局長の立場からの講演でした。当事者や家族も参加して作りあげ、2010年政府に精神保健医療改革に関する「政策提言」を出しました。浜家連もこの活動に参加しました。全国で、72万筆の署名を国会に提出(内浜家連は約1万筆)、また、全国320地方議会が、法制化を進める意見書を超党派で採択しました。国民の70%にあたる国民が議会を通じて法制化を求めています。請願書については一部の国会議員の反対で採択はされませんでした。しかし、この運動を進めてきた中での教訓は沢山ありました。①当事者のニーズを主軸にする世論が大きく変わった。②国民的連帯を強める輪の広がりが作られてきた。その結果五大疾患に挙げられて地域医療計画に組み入れられ2013年に計画策定へと進んでいきました。来年度新たな精神保健医療体制がかわり保護者制度がなくなる等、精神保健の流れが変わろうとしています。この流れにあわせて国民的連帯を強めて「こころの健康基本法」を作る環境整備を確かなものにしていきましょう。と締めくくり、大きな拍手に包まれて話が終わりました。

※※※ 2日目分科会報告

あおば会 片桐 順子

私は第3分科会「元気な家族会から」に参加をしました。3つの家族会からそれぞれ3人が発表されました。

◎足立区精神障害者家族会(あしなみ会)の石川和子さん

「あしなみ会」は昭和44年発足。足立区は4つの家族会があるという。地域の家族会が2つと、病院の家族会2つ、の4つの家族会が連携しながらそれぞれ活動をしているそうです。4つの家族会が連携をして、同じ要望書を区長あてに提出し衛生部と懇談をしていることです。それと、電話相談を家族会事務所で行っていることです。毎月、第1、第3木曜日。午後1時から4時。会員の増加は難しく現状維持をしているという。

石川さんは一人一人が気兼ねなく、自分の思いを話す事が出来、みんなの希望に添った活動をする。当事者も家族も地域で元気で暮らす事が出来る事を願っている・・・と結ばれました。

◎相模原市精神障害者家族会「みどり会」 定形和子さん

みどり会は昭和48年発足、来年40周年を迎えるという。会員数約75名 市の障害児者団体協議会(連協)と市内関係団体等と協力しあっている。「じんかれん」とも連携して家族会では取り組めない大きなイベントや学習会に参加できている。各市の福祉行政の問題などの情報を交換し、県への陳情・要望活動等が行われている。

例会後には欠席者に資料を送付している。通信を通してでも交流をしたいと思っている。けれど、例会に参加できない家族や、高齢の家族の方との交流は、むずかしいのが現状だという。

定形さんは、私たちが元気になる秘訣は、本人達のリカバリーに希望を失わない事、心を病む人達との問題から逃げない事ではないかと思う。人々に繋がり、精神の障害や特性をもった人達と共に暮らしていける地域社会を求めて、社会に関わっていくことではないかと思っている・・・と結ばれました。

◎「精神障害者を守る日立市民の会」 弓野孝子さん

「日立市民の会」は昭和43年発足。会員数約71名。3年前から商店街の一角に事務所を無償で借りている。不動産屋さんから市民のために毎日オープンするという条件で(さびれたシャッター通りにしたくない)事務所の看板には「つどいの広場」「NPO 法人障害者の自立を支援する会」と掲げることが出来た。日曜・祭日を除く毎日10時から3時までオープン。居場所・相談窓口として喜ばれている。室内には、障害者が作ったクッキー・手作りアクセサリー・一般の人の手作り品が並び、毎月フリーマーケット・ワークショップを開催している。ワークショップでは、地域の人を講師に招き専門の立場から話しを聞くなどをしている(花や 薬屋 お茶屋 施設長 地域の人等)

弓野さんの、行動しなければ何も変える事はできない。つどいの広場から笑顔の輪を広げていきます。明るい未来を信じて・・・の言葉に元気をもらいました。

それぞれの、発表者の方のお話の終わりには、会場から暖かい拍手がしばらく鳴り響きました。家族会の事務所があったり、地域の人達とのふれあいがあったり、私たち家族会と比べてうらやましいと思う事がたくさんありました。

例会に参加できなくなった会員に対して、私達も何か考えていかなければと思いました。私達もいいところがあるはずです。いいところを探して、3人の発表者の話しを参考にして、元気な家族会になるようにがんばらなければと思いました。



∞∞日本精神障害者リハビリテーション学会 第20回神奈川大会in.YOKOSUKA

会場：神奈川県立保健福祉大学 平成24年11月18日（日）に参加して

常任理事 松本やす子

11月16日から始まり17日・18日と3日間全国大会が開催されたが、私は18日のみの参加になりました。毎年このような大会が行われていること知りませんでした、今回横須賀が大会会場となり近いこともあり参加しました。

精神障害者が沢山のリハビリテーション支援のもと支えられていることに驚きました。精神保健福祉協議会・日本精神神経科診療所協会・精神病院協議会・臨床心理・精神科看護技術・社会福祉協議会・地域生活支援協議会、など等27団体。神奈川県の団体19団体も参加し、それぞれにシンポジウムがあり、それぞれの分科会があり事業発表がありました。多すぎて時間も限られ身体1つではとても聞き入れられないことでした。お弁当食べながらのセミナー（ランチョンセミナー）でもありました。

実行委員長に加瀬昭彦先生（横浜舞岡病院院長）、事務局長：鈴木弘美氏（横浜メンタルサービスネットワーク代表）、他37名の実行委員。浜家連より石井紀男氏（浜家連顧問）も大会実行委員としてこの大会を盛り上げられました。

私は、「東京・地域精神看護ケアねっと」、「障害者概念の広がり：～発達障害、高次脳機能障害、パーソナリティ障害のある人の支援～」、「～障害を持つ人の恋愛・結婚・子育てについて考えよう～」の発表の分科会に出ました。パーソナリティ障害のある人の支援を発表された方は私の地元「のびの会」でした、訪問したことはあったが事業内容はよく分かっていなかったが、現状の当事者・活動内容の様子を見聞きして、外見では計り知れないご苦労のあること、当事者の苦しみを知りました。

「障がいを持つ人の恋愛・結婚の場」では、石井輝子さん（石井紀男顧問の奥さん）「家族の立場から」の発表がなされました。穏やかで・息子さんを信じ・出しゃばらず・距離を（心の）置かれて見守っておられる様子が感じられました。このような見守りが出来ているから息子さんがリカバリー出来ているのだと思いました。私も目標に心に留めて置くことにしました。

他、発表では日頃お世話になっている横浜市内の生活支援センター、自立アシスタント、就労支援、他多数の支援事業の発表がなされました。多くのリハビリテーションのあること知ると同時に、当事者・家族がどれだけ利用価値を見出せるか勉強することが大事だと思いました。開催場所が、県立保健福祉大学であったことで先生方、学生方々が参加し勉強されていたことは将来に向かって良かったと思いました。

イベントのお知らせ

§1 自主映画会について

「むかしMattoの町があった」（イタリア映画）

日時 平成25年1月6日（日）12:30～16:30（開場11:30）

1部 12:35～14:11（96分）

2部 14:30～16:12（102分）

会場 横浜市健康福祉総合センター 4階 ホール **事前申し込み制です。**

参加費 1000円（資料代）定員200名（定員になり次第締め切り）

申込み先 FAX 045-633-2065 かもめサポート

Email matto1316@yahoo.co.jp



§2 Cブロックフォーラムについて

日時 平成25年2月16日（土）13:00～16:00（12:30開場）

会場 磯子公会堂 定員 500名

参加費 無料

講演 演題 統合失調症の最新の治療～リハビリテーションなど～

講師 加瀬 昭彦 先生（横浜舞岡病院 院長）



編集後記

今年も12月号を発行できました。原稿をお寄せいただきまして感謝します。今月号はみんなねっとの記事が大半を占めることになってしまいました。今後の家族会活動に生かしていければと思います。